

家屋倒壊等はん濫想定区域とは ※P47～P48の全域図(浸水継続時間)を確認してください。

家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい流れが発生するおそれがある堤防沿いの地域を「家屋倒壊等はん濫想定区域」として設定してあります。

この区域は、早期の立退き避難が必要です！



家屋倒壊等
はん濫想定区域

家屋の倒壊をもたらすようなはん濫や河岸の侵食が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早期の立退き避難が必要な区域です。

河岸侵食



洪水のときに河岸が削られて、家屋が倒壊するおそれのある区域です。

土砂災害

※P11～P46の詳細図を確認してください。

土砂災害の種類

一般的には、土砂災害というと「がけ崩れ」や「土石流」、「地すべり」をいいます。

災害の発生には雨の降り方が深く関わっていますが、発生状況や被害は違うものです。水がしみ出す・地鳴りがする・地割れがあるなどの前兆現象にはくれぐれも注意しましょう。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)



「がけ崩れ」は斜面が突然崩れ落ちる災害です。崩れた土砂は、斜面の高さの2～3倍も離れたところまで届くことがあります。

土石流



山腹や川底の石や土砂が、長雨や集中豪雨などの大量の水と一緒に津波のように襲ってくるものを「土石流」といいます。

地すべり

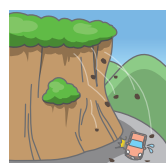


地面は地質の異なる層が積み重なっています。地下水などがすべりやすい層にしみ込み、そこから上の地層がすべり落ちるのが「地すべり」です。

前兆現象



がけから水がしみ出している



がけから小石がぱらぱら落ちてくる



急に川の水がにごり流木がまざる



がけに割れ目が見える

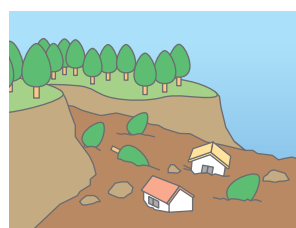


山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる

山が崩れると…



家屋などの建物の倒壊

土砂の大きな力によって、家屋などの建物が倒壊する可能性があります。



集落の孤立化

道路などに土砂が流出すると、道路が寸断されるため、集落が孤立化する場合もあります。

適切な避難行動

大雨の避難行動の種類

避難行動には、以下のような種類があります。状況に応じて、適切な避難行動をとりましょう。避難は「**浸水が始まる前**」「**自主判断**」「**徒歩**」が大原則です。

自宅の外への避難 【立退き避難】

以下の場所に住んでいる場合は、早期の立退き避難が必要です。

- 家屋倒壊等はん濫想定区域内
- 土砂災害警戒区域内
- 想定される浸水の深さより低い場所
- 浸水継続時間が長い区域内



自宅に待機 【屋内安全確保】

想定される浸水の深さより高い場所に避難できる建物に住んでおり、備え(水・食料など)ができている場合。



緊急安全確保※

少しでも高い場所や、がけから離れた場所へ移動する。



※緊急安全確保は、災害が発生・切迫した段階での行動です。やむを得ず立退き避難ができず、避難し遅れた居住者などがとる事前の行動です。そのため、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限りません。

避難とは「難」を「避ける」ことです。不特定多数の人が集まる避難所などでは感染症の感染拡大のリスクが高まります。避難所に避難する以外の方法(分散避難)についても考えてみましょう。

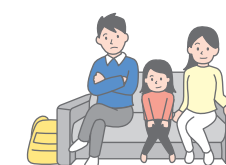
分散避難

避難所が過密になることを防ぐために、状況に応じた「分散避難」という取組みも重要になっています。

自宅に留まる

- 自宅が洪水・土砂災害の危険性が低い。
- 想定される浸水の深さよりも高い場所に避難できる。
- マンションなどの上層階に住んでいる。

屋内安全確保
自宅内の安全な場所へ移動



親戚・知人宅などへ避難

- 親戚・知人宅などの洪水・土砂災害の危険性が低い。
- 避難できる親戚・知人宅などがある。

親戚・知人宅などに身を寄せる
親戚・知人などには日ごろから相談しておきましょう



避難所への避難

- 自宅が洪水・土砂災害の危険性が高い。
- 避難できる親戚・知人宅などがない。

本市が開設した避難所へ

